

花の学び舎プロジェクト

『花の学び舎プロジェクト』が進んでいます。先日は PTA 校外委員の皆様による植栽。今回は生徒会が声を掛け、ボランティアを募り、CS 委員会・学校支援本部・地域の皆様にご協力いただき、チューリップの球根を花壇に、プランターに、そしてフェンス沿いに植えることができました。CS 委員会・学校支援本部・地域



の皆様には指南役として活躍いただきました。

驚いたことに、球根から出ている芽を下向きにして植える生徒もいるのです。芽ではなく根と捉えたようです。今回、指南役の方からご指導いただき、無事、芽は上を向き地中へと埋められていきました。大切な体験となりました。協力いただきました指南チームの皆様、ありがとうございました。

さて、チューリップですが、球根から育てますが、種から育てることはありませんね。何故でしょうか？まだ私が理科を教えていたころ、この問いについて討論をする授業をしていました。「おしべの花粉が大きく重いので、雌しべの柱頭にたどり着かない。」「花粉を運ぶはずの昆虫が、色が鮮やかすぎて驚いて寄りつかない。」「そもそも種を作らない。」など様々な意見が飛び交いました。3年生の“生殖”の単元です。チューリップは3月から5月にかけて開花します。卒業式や入学式に花を咲かせるのでしょうか。満開のチューリップに囲まれて卒業式の記念写真が撮れれば、超VIPの気分。春が待ち遠しいです。

1年生は春どころか真冬に向かっての準備です。1月27日から始まるスキー移動教室に向けて学習が始まっています。スキー教室実行委員会を中心にスローガンを決め、ルール作りや、ウエアのサイズ合わせ、班員決め等が進んでいます。また、社会と総合・食育がコラボし、『雪国の産業』と『雪国の食事』について学びました。雪国の食事の特徴は“保存食



が発達している”ということ。かつては深い雪に交通が安定していませんでした。そこで、雪の無い時期から食材を保存できるように加工して冬をしのいだのです。また、長野県の菅平スキー場を訪ねるといことで、長野の特産品についても学びました。長野の特産品である、“寒天”“信州みそ”“あんず”を使った



給食『鮭の信州みそ焼き・糸寒天ときのこ汁・信州あんずかん』が19日に用意されました。

さてチューリップですが、球根から花をさかせるので、受精をしていません。つまり他の個体の遺伝子情報が組み込まれることがありません。球根のもつ遺伝子をそのまま引き継ぎ、昨年と同じ形そして同じ色の花を咲かせます。このように受精によらない子孫の増やし方を無性生殖といいます(3年生!もちろん答えられますよね)。実は、チューリップには種が存在します。ですから、「種を作らない」は間違い。正解は「種から育てると花が咲くまでなんと5年の歳月が必要だから。園芸業者としては、5年の歳月をかける効率が悪いです。」この答えを聞くと、討論をしていた生徒からは「なーんだ」とブーイング。「もっと言うと安定して同じ色同じ形のチューリップを出荷できるからだよ。」この補足を聞くと「お金儲けの話?」とこれまたブーイング。次から次へとブーイングの無性生殖です。ごく少数が「へー」と頷いてくれた程度。理科の“なぜ”そして“そうなんだ”のところにジャストミートしようと思っていたのに。ちよっぴり、かする程度で。

チューリップに対する私の問いかけに、生徒の反応は チョーチップ という結果となりました。